

平成五年から始まった同社の「分県登山ガイド」シリーズ第十八巻、白山をはじめ、宝達山、医王山など、本格的な登山から手軽なハイキング向けまで、計五十二の山について、詳しく



『石川県の山』出版
能登から加賀まで県内の主な山を紹介する「石川県の山」写真Ⅱがこのほど、山と溪谷社から出版された。金沢ナカオ山岳会の林正一代表ら、ベテランメンバー四人がまとめた。カラー写真をふんだんに使い、見やすい登山ガイドとなっている。
A5判、百十一ページ、定価千七百五十円。
いコースや所要時間、注意点を解説した。
今回の登山ガイドについて、林代表は二年がかりで調査した最新のデータを掲載した。フナ林の美しい石川の山への関心が高まればうれしい」と話している。

掲載写真は、山麓からの紹介山岳、山頂を示す写真の2点を必ず入れた上に、展望写真、登山風景などを1コースにつき4-6点提出となっており、人物が写っている方がよいとの補足もあったということだった。

分県登山ガイド 「石川県の山」

15期 舟田 節子

ナカオがこの仕事をうけたと聞いたのは93年初めだったように思う(ワングルの35周年記念総会をやった年)。夏には執筆メンバーの4人が決まった。私が選ばれたのは「女性の視点」もあった方がと、会の原稿については意地にかけて(学習塾稼業で、子供に宿題を課す立場)早出しを努めてきたからなのだろうが、林代表がどのような「勤務評定」をされた結果なのかまでは知る所ではない。

52コースの選定基準は

- a 登山やハイキングの対象として、地元で親しまれている山
- b 登山道、遊歩道など、コースが比較的に整備されていること
- c 展望や日の出、桜などの花の山など、何らかの特徴のある山
- d 家族向きのハイキングに敵している山となっていた。

山の選定においては、及ばず道がなくカットされてしまい、大門、赤兎など県境の山は石川県からは道がない。県境の山を含め、すべて編集担当と打ち合わせのうえ、選定されていた訳だが、その過程において再認識されたのは「山と溪谷社は、一つの企画として分県登山ガイドを打ち出したものであろうが、いわゆる県民に推奨できる登山コースの視点を持つ時、石川県の山はあまりにアクセスが不便で、道標等の整備も行き届いていないということだった。そのことは、近年私達も「北陸の100山を登る会」での登山指導や、「白山眺望の山・泰澄大師ゆかりの山」の企画などで県外の山に登る機会が増え、気付いていたことでもあった。私個人も、年寄りが動けなくなってから押し込める施設をデンと建てるより、気軽に自然に触れ合い、眺望を楽しめる登山道整備や、アクセス整備の方にお金を使ってほしい、心身共に健康な老後の為にも山を見直してほしいと思っている。

ともあれ、「社会性ある登山」「生涯登山」

の会のスローガンに沿うものとして、この企画を受け止めたし、請負仕事ながらもそれらの願いはこめて、世に送り出したつもりでいる。

93年晩秋、52コース中きっちり4分の1の13コースが割り当てとなる。北は輪島岩倉山から、南は大聖寺の寺尾観音山まで、低山や歩行距離の短いものが主体になる。

「どうもお心遣いいただきまして。」

と言ったら、

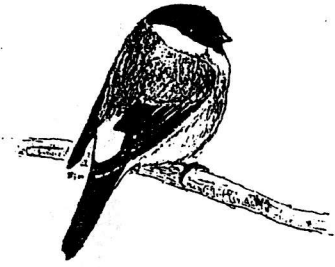
「短いから楽というわけではない。行程の長い山なら、右へ行って左へ行ってとそれだけでガイドが書けてしまう。短い山の方が何を書くのが難しいもんや。」

と言われた。

ただ、低い山の方は、選定に入ったからには歴史や、文化財、寺社、記念碑など何らかの種の種は持っている。本来、欄外に書くべきことを本文中に混ぜてしまえば、書けないこともなかった。もちろんわずか一行の確認のために出直したことも再三ではあったけれど、「事実通り」は厳しい反面、気楽でもある。それ以外に書きようがないし、実際には規定行数に納めるために添削の「削」の方が必要だった。ガイド文については、いざとなれば傘をさしてでも確かめに行くわ！の開き直りもできた。

たいへんだったのはなんといっても写真。カメラを持たない山行などありえないが、これまではわざわざ高いリバーサルフィルムを使う気まではなかったし、使うとすれば無人になってからシャッターを切っている。要するにストックなど無く、全部を撮りに行かねばならないということだった。晴天（霞がかかっておらず、青空の日）と休日が重なる確率がまずネック。さらに、地理的に石川県の山は、比較的晴天の見込まれる午前中が逆光になるというハンディまであった。

この企画は会として受けたので、他の会員も協力することになっていたけれど、なにしろ低山担当で、その程度の山でせいかくの休日を潰してもらうのも気がひける。写真にこだわると



天気オンリーで、人様の都合まで加える余地がない。結局、家族という一番効率のいい単位で、いつでもカメラ入りザックが部屋に転がっている状態の中で、ノルマをこなしていった。dの家族向きハイキングに適している山の点では、三男坊が格好のモデルになった。

低山がメインの私は麓からの写真に難渋した。低くて、まわりの蔭になって見えなかったり、どのデコボコに当たるのかが、分からなかったり。麓の人に聞いても分からない。山へ行こうなんてまさしく、都会人の遊びであって、どのデコボコにどんな名前がついているのか、彼等にはホントに暇なことに過ぎないのだった。そこら中の林道を見えるか？と走りまわったり、結局は頂上から、眼下に見える景色の中からスポットを選び、駆け降りて、今度は車でその地点へ走り、「だめや。前山で下半分が見えん。」を繰り返す…。こうして読図力が否応無しについた後半は、「ここなら見えるはず」と走り「やったぜ！」になった。ただ、はまりだすと、「もっと良く見える所」とか、「この間のは色が悪かった」になり、いつまでもピリオドが打てない状態になった。こうなると、職業柄、夫のこだわりの方がひどく、私は車内であきれてふて寝、彼の方が脚立を抱えて崖を登って行くといった場面がくり広げられたり、現像フィルムが戻ってくる度、どれを選ぶかでまた一揉。アッシーもやってもらっている手前…。

また、執筆者中二人が入院というアクシデントもあった。彼等の担当分を、やはり要領をつ

かんでいる私達のカメラが補充することになった。その間には、「石川の自然百景」写真コンテストで2席に入り、ちょっと自信をもった一コマもあった。

95年9月、締め切り2ヶ月前に林代表に全てをお渡しし、ホッとしたような、虚脱状態を味わった。

この分県ガイドは、1年に2回4-12県ずつ発行されていき、あと4県で完結となる。担当編集者は二人いるらしく、片方は要項どおり1ルートに2-3枚の写真で編集しているし、もう片方が1ルートに5-6枚を掲載し、人物も正面を向いていようとおかまいなし。後者の編集をそのように編集方針が変わったのかと勘違いした私達は、また登り直して標識の類を撮影したり、顔がないわけじゃあるまいしと後ろ向き人物しかなかったのを、正面を向いてにこやかに撮り直しもした。編集者が二人いて、その渋い方に当たったのだとわかったのは、初稿が届いてから…。



風景を私達が写真で切り取る。その写真をそこへ登ったこともない編集者が、どんな基準でなのか、選択してしまう…。自分にとって快心のカットが落とされ、どうということもないのが掲載される。エエ、フィルムを、時間を返せ！舟田夫婦は、声を合わせて編集者をなじり合った。写真集にせよ、映画にせよ、見る立場以上の観点を持たなかった私にとって、そのあたりが驚き、歯がゆさ、そしてあきらめだった。ありきたりだが、本当にいろんな勉強をさせてもらった。

さて、マイナーな石川県がどれだけ売れるのかと思いきや、全県を揃えるマニアもいるので1万2千部を用意すると聞いている。今、書店では、夏山情報誌の横に「石川県の山」が積まれている。それを手にとり、自分の名前を確かめて、ニヤッとしている私はまぎれもなく「一人のおばさん」だ…。

かつて、こんなふうに「かがのと百山」を手にして、私はナカオ山岳会へ入会希望の手紙を出した。それから12年…。本はどんな一人歩きをしていくのだろうか。

「石川県の山」を購入された方へ

…写真については（莫大な時間をかけたのでかわる）、舟田執筆のページ全部と、p6上、左下、p7上、右上、p31上、p37上、p50上、p52上、高三郎全部、p76上、p77上、p79左上、p87上裏表紙上部の4枚を撮影しています。

「石川県の山」未購入の方へ

…著者割引+書籍小包料金+振込料で、1750円より数10円安くなるだけ。書店で注文いただく方がよろしいようです。

もちろん著者サインの欲しい方はこの限りではありません。ご希望の一言も添えて下しくそなサインをし、郵送させていただきます。

富山岳連 '94

ガッシャーブルム I 峰
遠征 (続)

18期 田辺 隆一

富山県下30余りの山岳団体の集合体が富山県山岳連盟で、私はそのうちの一つである十全山岳会(金大医学部山岳部OB会)富山県支部、及び、他の別の山岳会にも所属しています。

組織は、事務局、国体委員会、自然保護委、指導委、遭難対策委、海外登山委などがあり、中でも海外登山委では、国際交流、海外登山の情報収集立案等を行っています(各都道府県にもほとんどあると思います)。

当岳連では、高所登山のレベルアップ、及び若い人の海外登山の経験のために、近年は約5年毎にヒマラヤ遠征を企画、成功させています。

('83ナンガパルバット8125m '88 ブロードピーク8047m '94 ガッシャーブルム I 8068m)

岳連の事業に参加するには、加盟団体の会員である必要がありますが、一時的な預かりの身分での参加を認められることもあるようです。

普段の山行やトレーニング等は、各山岳会、あるいは個人によるものがほとんどで、マッキンレーやチョーオユー等の海外遠征から、四季の剣岳や北アルプス等、各自のペースで行われています。私個人は、冬は数回のリフト付スキー場も含めて山スキー、春は山菜取りを兼ねて登山及び山スキー、7、8月は立山(雷鳥沢、剣沢診療所)、秋は宴会登山…と、一年中スケジュールで一杯…といたいところですが、実際は休暇をとるのがなかなか難しく、アールにひたってしまいます。

さて、昔も今も世の中いろいろ厳しく、長期休暇がとれず参加を断念する人、退社する人、様々です。私の場合は病院への貢献度の高さ故(?)、皆さん気持ちよく送り出してくれ、感謝しつつも、当然当然と思いがあって…。5-6年静かに仕事をしたら、もう一度くらい行かせてもらえないかなあと、思い出にひたる毎日です。

ガッシャーブルムへの道

燃える隊員たち

<6>



田辺隆一さん(41)

隊員の健康預かる

黒部市民病院の麻酔科医師。医療担当として遠征隊に参加する。顔の半分を覆う立派なひげが治療で忙しく、ベースキャンプにすぎ付けた。このときは隊員の医療活動に加えて地元の村人の治療で忙しく、ベースキャンプにすぎ付けた。このときは隊員の医療活動に加えて地元の村人の治療で忙しく、ベースキャンプにすぎ付けた。

リードマークだ。
一九八三年に黒山岳連
盟隊がナンガパルバット
(八、一二五〇)に遠征

ンブにすぎ付けた。
「今回はぜひ、上へ上が
りたい」という。
今回の遠征では、標高
五千メートルという高い地点に
ベースキャンプを設け
家に両親がいる。

金沢大学医学部に在学
中から同医学部十全山岳
会に所属し、北アルプス
の山々を登った。
山雄会に所属。黒部市
三日市。婦中町富崎の実
家に両親がいる。

高山病

ヒマラヤ登山に高度障害はつきもの。キャラバン中から、ほとんどの隊員が大なり小なり頭痛に苦しめられた。足早に歩くとすぐに息が切れるため、ゆっくりとしたペースで歩くしかない。

キャラバン五日目、ついに佐竹剛彦隊員がダウンした。朝から調子が悪く、遅れ気味で歩いていただけが、午後にはほかの隊員より相当遅

れてしまった。意識がもうろうとした状態でウルドカスのキャンプ地にたどり着くなり、倒れ込んでしまった。

田辺隆一医師に点滴を打ってもらったが、食事ものどを通らない状態。翌日からも何とか歩き続けたが、ベースキャンプに着くまで調子が戻らなかった。

キャラバンを始めたデスコレ村の標高が三、〇四八メートル。このあたりはまだ高度による障害はなかった。標高三、四〇〇メートル近いパイユあたりから次第に息苦し

ガッシャーブルム 輝く壁に立つ

富山遠征隊の軌跡

5

野戦病院さながら



さを感じるようになってきた。

ウルドカスは富士山三、七七六メートルの頂上ぐらいの

高さがある。頭痛を訴え、田辺医師から薬をもらう隊員が増えてきた。ポーターたちも「風邪をひいてせき

頭痛に加え顔にむくみ

が止まらない」「くつずれができた」と言って次々に薬をもらいにきて、キャンプはさながら野戦病院のよう

う。

顔のむくみも高度障害の一つ。高所へ行くと、小便が出にくくなり、その結果顔がむくんでくる。利尿剤を飲んで小便を出すのが一

田辺医師(中央)に点滴を打ってもらった佐竹隊員(右)。左は佐伯隊長と黒崎隊員(後ろ姿)のウルドカスのキャンプ地

番効果的だ。

キャラバン六日目、標高四、七〇〇メートルのコンコルディアに到着した。パリのコンコルド広場から取った名前だという。ここは氷河の分岐点に当たり、確かに広

大な広場のような地形になっている。

正面にガッシャーブルムルIV峰(七、九二五メートル)が立ちのぼる。右側にはバルトロ氷河は大きく右へ回り込む。左側にはバルトロ氷河から枝分かれしたゴドウィン・オースチン氷河が延びる。この方面には、どっしりとした山容のブロード・ピーク(八、〇五一メートル)、世界第二位の高峰、K2(八、六一二メートル)が威容を誇っている。

八千メートル級の山々が居並び、ヒマラヤ登山を目指す者にとっては心躍る景色。高山病のつらさもういっぺんまぎれた。

残念ながら、目指すガッシャーブルムI峰はバルトロ氷河のさらに奥に位置するため、まだその姿が見えてこない。I峰にはヒドゥン・ピーク(隠れた峰)の別名がある。

濯 洗

荷揚げは、三日行動して一日休憩するペースで進めた。

休養日にはBC(ベースキャンプ)のテントで昼寝をしたり、トランプで遊んだり、読書をしたり、隊員たちは思い思いに時間を過ごした。

大勢で楽しんだただ一つの娯楽がトランプ。黒崎泰信、川村泰臣、高田賢一隊員らはよく楽しんでた。

読書はそれぞれが持ってきた文庫本を回し読んだ。

みんな洗濯にも

ポリバケツの中に川の水をためておいて、太陽の熱で温める。半日ぐらい置いてもたいして温度は上がらなかつたが、直接川で洗濯

精を出した。空気が極度に乾燥しているの、日本にいたときほど汗臭くなることはないが、洗濯をしないわけにはいかない。

洗濯場はBCのそばの水河の上を流れる川。氷の上を流れる水の温度は零度に近い。ほんのしばらくで手が真つ赤になり、ちぎれるように痛くなってくる。

冷たさを防ぐために、隊員たちはいろいろ工夫を凝らした。

輝く壁に立つ

富山遠征隊の軌跡

12

冷水に手は真つ赤

するよりは随分ましだった。洗濯をしたり、体を洗ったりした。

田辺隆一医師はプールを作った。石を丸く並べた上にビニールシートを敷き、たさに決死の覚悟が必要。

太陽熱で温める工夫も



バケツで川の水を何度も運び込んだ。とても体を浸すような大きさではないが、ほかの隊員もこの水を使う。

BCでは毎日、日本語の

快晴の暑い日を選び、短時間で済ませるしかなかった。

キャラバン中はラジオが荷物奥底に紛れ込んで見つからず、全く聴けなかった。

大相撲名古屋場所の生中継にも耳を傾けた。日本との時差は四時間あり、現地では午後一時から一時間の放送だった。

サッカー好きの松田靖彦隊員は、アメリカで開かれていたワールドカップサッカーが気になっていた。

▲ビニールシートにためた水を使って洗濯する
田辺医師
＝ベースキャンプ

ニュースは日本の異常な猛暑、水不足も連日のように伝えていた。向井千秋さんが乗ったスペースシャトルの打ち上げのニュースもラジオで聞いた。

ニュースは日本の異常な猛暑、水不足も連日のように伝えていた。向井千秋さんが乗ったスペースシャトルの打ち上げのニュースもラジオで聞いた。

国際協力

富山隊が登頂に成功した翌日の八月十三日、ガッシヤールムII峰(八、〇三五メートル)を目指していたボスニア隊の隊員がC1(キャンプ1)で倒れ、動けなくなった。半身がまひしており、どうも脳こうそくらしい。

困ったときはお互いさま。各国の隊員たちが協力し合って病人の救助に当たった。

まず、たまたまC1にいたプリティッシュ隊のドク

ターが付きっきりで看病に当たった。

BC(ベースキャンプ)からはボスニア隊の隊員六人のほかにアングロ・アメリカ隊の隊員三人もC1へ急行した。アングロ・アメリカ隊の三人は第一次アタックで既に登頂を終えており、救助に向かう余裕があった。

ボスニア隊、アングロ・アメリカ隊の隊員たちは病人をスノーボードに乗せて夜通し歩き、十四日朝、ボスニア隊のBCに着いた。佐伯尚幸隊長もBCから出迎えに向かい、しばらくス

輝く壁に立つ

富山遠征隊の軌跡

28

助け合って病人救助



ノーボードを運ぶのを手伝った。

スノーボードは、急ぎよ

器を縦半分に切り、それを

五つひもでつないだ。ジョ

イントの部分が自由に屈曲

するので、でこぼこの多い

氷河の上を滑らすには格好

のものだった。

病人はすぐにテントの中

に寝かされた。意識はかす

かにあるようだが、声は出

ない。

ここからは田辺隆一医師

ボスニア隊の病人をス

ノーボードでBCまで

運ぶ各国隊のメンバ

ー。最後尾は佐伯尚幸

隊長

の出番。病状を診断し、富

山隊が緊急用に準備してい

た酸素ボンベを使って、酸

素吸入を行った。

病人は一応、命に別条は

ないようだが、一刻も早く

病院へ運ぶ必要があり、パ

ヘリで下山、病院へ

正午近くになってようやくヘリコプターが到着し、病人はふもとの町、スカルドウまで運ばれた。

富山隊の近くにBCを設けていた外国隊のうち、ボスニア隊のほかにも、スペイン隊の女性隊員、プリティッシュ隊の隊員二人も体調が思わしくなく、ヘリコプターで下山していった。

約三十メートル離れたK2(八、六〇一メートル)では、遭難が続出していた。チェコ隊は病

気と事故で二人が相次いで死亡し、遠征を中断。アメリカ隊の一人も転落死して

いた。

その点、富山隊は一人もけがや重い病気がなく、全員無事に帰ることができたのは幸いだった。

の出番。病状を診断し、富山隊が緊急用に準備していた酸素ボンベを使って、酸素吸入を行った。

病人は一応、命に別条はないようだが、一刻も早く病院へ運ぶ必要があり、パキスタン陸軍のヘリコプタ